

明治三十二年二月二十六日午前十時四十六分開議

○委員長(濱名信平君) ツレデハ昨日ニ引續キマシテ、開會致シマス

○(林彦一君) 私ハ昨日カラ皆サンガ御質問ニナッタノデ、大抵ナンデスケレドモ、今一ツ確メテ置キタイコトガアルノデスガ、昨日カラノ御話ニ依ッテ見マス、明治三年九月十日藩制施行以後各藩ノ制度、即チ祿高改正ハ政府ノ命令、即チ藩制ノ命ズル所ニ依ルノ外、藩主自ラ改正スルコトノ出来ヌト云フ點ハ、政府委員モ御同意ノヤウニ伺ハル、果シテ然ラバ各藩ニ於テ、明治七年七月十四日前定メタ制度ニシテ、藩制ノ條項ニ背イタルモノハ、錯誤ノ處分ト信ジテ宜カラウト思フ、サウシテ藩制ノ十二項ニ、從前ノ藩制從前ノ方法ヲ示シ、知事家祿士卒祿等ノ分賦——分ケテ賦課徵集スル、償却スベキモノ等ヲ示シタル、故ニ若シ知事家祿士卒ニ分賦セズ、總高ヨリ引去リタルモノハ、藩制ニ背キタル處分ト云ッテモ宜カラウト思フ、此處分ノ錯誤ノタメニ、一方ニ明治五年四月第百二十五號ニ依ッテ、達ノアルニモ拘ハラズ、今尙ホ國債ヲ負擔スルコト云フノハ、不公平ト信ジテ居ル、五十號ハ即チ是等ノ錯誤ヲ正スモノト信ジテ居リマスガ、此點ハ如何デアリマスカ

○政府委員(松尾臣善君) 藩ノ知事ガ、改正スルコトガ出来ヌト云フ點ハ、ドコデゴザリマスカ、サウ云フコトハ申上ゲヌ、即チ藩制ニ依ッテ藩ノ知事ガ改正スル見込ヲ立テ、サウシテ其事ヲ施行スルニ就イテハ、伺フ太政官ニ立ツタ藩モアレバ、届出テツレヲ認可シタ藩モアリ、又届放シテ太政官ガ認メテ置イタ藩モアルト云フコトヲ申シマシタ、併ナガラ藩ノ知事自ラ其改正ヲスルコトガ出来ナイノデアルト云フコトハ、私ハ申シマセヌ

○(林彦一君) ツレデハ少シ違フヤウデス、昨日カラノ御話ガ、藩制ニ依ルヤ、此政府ノ命令デナケレバ、隨意ニ朝裁モ經ズシテ、藩主自ラ祿制ヲ改正スルコトハ出来ヌト云フコトハ、昨日カラ度々仰ニナッタヤウニ思ヒマスガ……

○政府委員(松尾臣善君) ツレハ藩制ノ第四項ニ依ッテスルノデアリマス

○(林彦一君) 藩制ノ四項ニ依ラズシテ、スルト云フコトハ、出来ヌト云フコトヲ、昨日カラ仰シヤッタ

○政府委員(松尾臣善君) 依ラズシテスルノハアリマセヌ、皆改正スルノハ、此御趣意ヲ奉體シテスルノデス

○(林彦一君) ツレデ皆藩制ノ命ズル所ニ依ッテシタト云フコトハ、今仰シヤッタ通りデアアル、然ルニ此各藩ニ於テ、藩制制度ヲ拵ヘル時ニ、此藩制ノ條項ニ背イテ拵ヘタ制度ガ、若シアルトスレバ、ツレハ錯誤ノ處分ト信ジテ宜カラウト思ヒマス

○政府委員(松尾臣善君) 制度トシテ既ニ太政官ガ認可ヲシ、認メテ居リマ

スモノハ、今ツレヲ改メルト云フコトハ、出来マセヌデス、ツレハ錯誤デゴザリマセズ、又五十號ノ法律ハ、士族ノ持ッテ居ッタ祿ニ錯誤ガアッタナラバ、正セト云フノデ、彼ノ制度ガ、仕様が惡カッタト云フコトヲ、五十號ハ命ジテゴザリマス

○(林彦一君) ツレハ勿論九月十日以後現ニ持ッテ居ッタ、若クハ十一月現在ニアッタ制度ト云フモノヲ、二度目ニ改正スルトキニ、藩制ニ背イタ改革ヲシテモ、ツレハ構ハヌト仰シヤルカ

○政府委員(松尾臣善君) 制度トシテ論スル所デハ、ナイト考ヘマス

○(林彦一君) 明治三年九月十日以後ト云フ、アレヲ保護スル點ガ、スツカリ抜ケテシマフト思フ、又藩制ニ背イテモ、ドウシテモ藩主ガ定メタ制度ナラバ、ツレデ宜イト云フコトニナッタハ、明治三年九月十日以後ニ現在有シテ居ッタモノハ、減祿シテハナラヌト云フ、五十號デ保護スル其點ガ、全クナクナツテシマフト思ヒマス

○政府委員(松尾臣善君) 御質問ガ、私ニハ分リマセヌガ、詰リ五十號ノ法律ハ、藩制仰出サレ後ニ持ッテ居ッタ祿ニシテ、公債證書デ貰ヘルニ不足アリ、又ハ貰ヘヌト云フモノニハ、ヤラウト云フノデ、何モ制度ガ惡カッタカラ、直スト云フコトハ、條項ニハアリマセヌ

○(林彦一君) 明治三年九月十日以後ニ制度ガアッタ、其祿制ヲ更ニ藩主ガ改正シタ、改正スルトキニ政府ニ出シテ居ル、藩制ニ背イタ改正ヲシテ居ルモノハ、ドウデアルカ

○政府委員(松尾臣善君) ツレハ政府、即チ太政官デ認メテ居ルモノハ、適法デス

○(林彦一君) 藩制ノ條項ヲ背イテ出シテアッテモ……

○政府委員(松尾臣善君) ツレハドンナニナッタアッテモ、其時ノ太政官ハ、最上權ヲ持ッテ定メラレタノデアリマスカラ、ツレヲ動カスコトハ出来マセヌ

○(林彦一君) 太政官ガ自分ニ藩制ヲ示シナガラ、其藩制ニ背イテ居ルヤリ方ヲシテモ、宜シイト云フノデスカ

○政府委員(松尾臣善君) ツレモ宜シイデス

○(高須賀禮君) 私ハ昨日來ノ第一ノ疑問ガ、マダ晴レマセヌノハ、第一條ノ第二項デアリマス、明治四年七月十四日前ト云フ此「前」ト云フコトガ、必要デアリマスガ、此前各藩ニ於テ調査ニ係ル祿制ヲ標準トスルト、五十號ノ法律ノ精神ニ違フヤウニナリハセヌカト云フ疑ヲ懷キマス、五十號ノ處分法ノ第一條ニ「四年七月二十四日ノ祿高ニ關スル太政官ノ布告ニ依リ云々」トアル、是ニ依ッテ四年七月十四日マデハ、各藩ニ於テ定メタル祿制ヲ標準トシ

テ、四年七月ノ祿高ニ關スル布告ニ依ッテ調査シタル以後ノ祿高ニ錯誤ガアルトキニハ、未濟額ヲ給與スルコト云フ此五十號ノ精神ガナクナルヤウニ考ヘマス、尙ホ各藩ノ制度ニ依ッテ、今日ニ至ッテ見ルト、減祿スベカラザルモノヲ減祿シ、剝祿スベカラザルモノヲ剝祿シ、不當ナル處分ヲシタモノガアル、故ニ此五十號ノ法律ヲ以テ、藩制施行以後ニ於テ錯誤ガアレバ、相當ノ支給額ニ訂正シテ、額ヲ直スト云フコトニ極ツタラ、此藩制施行以後ハ生殺與奪ノ權能ナキ祿制ニ重キヲ置イテ、サウシテ政府ニ其後明治四年七月十四日ニ出タ所ノ政府ノ布告布達ヲ後ニスルト云フコトハ、兎ニ角藩制ニ定メタモノヲ標準トスルト云フコトハ、不都合ト思ヒマス、此點ヲ御伺ヒ致シマス

○政府委員(松尾臣善君) 其不都合デアラウト云フ御疑念デゴザイマセウガ、此不都合ダト思召サル、條項ニ付イテ、御解釋ノ點ガ、少シ違フダラウト思ヒマス、其點ヲ申上ゲテ置キタイト考ヘマス、ソレデ明治四年七月十四日前各藩ニ於テ、最期ニ定メタル制度ニハ、或一ツノ藩ガ、明治三年十二月ニ改正ヲシタモノガゴザイマス、サウシマスル此五十號ノ法律ノ半バノ所ニゴザイマス、明治四年七月十四日祿高ニ關スル太政官布告ニ依ッテ調査シタル以後ノ祿高、ソレカラ及ビ其以前、即チ調査以前ニ係ル藩制施行以後ノ祿高、是ニ引當ッテ來ルノデ、隨分文章ガ讀ミニクウゴザイマスガ、能ク讀ムデ見ルト、サウデゴザイマス、庚午ノ十二月ニ改正シタル案デアルト假定スルト、此明治四年七月二十四日ニ調べタ祿高帳ノ中ニ調査シタル及ビ調査以前ニ係ル、此調査以前ト云フ字ニ關係シテ來ルデス、ソレデスカラ斯ウ云フコトハナカラウトカ、或ハ狹メルノデアラウトカ云フヤウナコトハ、少シモ此二ツノ文章ノ上ニハ、起ッテ來ナイト思ヒマス、ソレガ起ッテ來ルナイヲ、能ク御研究下スツテ、其趣意ノ善惡ハ……

○(高須賀禮君) 私ハ趣意デハゴザイマセヌ、詰リ衝突スルト云フ疑ヒデゴザリマス、其明治四年七月二十四日前ニ定マツタ各藩ノ制度ト云フモノヲ基ニ致シマスル、五十號ノ中ノ第一條ニゴザイマスル明治四年七月十四日其祿高ニ關スル太政官ノ布告ニ依ッテ調査シタル其以後ノ祿高、其以後ノ祿高ヲ取ルコトガ出來ヌト云フ、即チ五十號ノ布告ヲ、幾ラカ狹メヤシマイカ、是ダケノ意味ガナクナツテシマフ、斯ウ云フ懸念ヲ私ハ持ッテ居リマス

○政府委員(松尾臣善君) チョット例ヘテ見マスル、斯ウ申上ゲタラ分リ宜イカ知ランカト思ヒマス、庚午九月ノ十日ニハ、第一ノ改正デ、祿高モ十石モ取ッテアリマス、ソレカラ第二ノ改正ニ、庚午十二月ニ八石ニ減シラレタ、即チ藩ノ制度ガ、然ルニ四年七月二十四日ノ調ニ、ソレヲ七石ト改正シタ、是ハ制度デモ何デモナイ、間違ッテ書イテアル、斯ウ云フ時ニ七石ヲ何處ヘ戻スヤ否ヤガ、今日ノ問題デアアル、以前ノ八石ノ所ヘ戻スカ、十石ノ所ヘ戻スカト云フノガ、今日提出シマシタ法案ノ問題デアリマス、ソレデ八石ノ所ヘ以テ行カウト云フコトヲ、今日出シテ居リマス

○(高須賀禮君) サウスルト以後ハ、少シモ往カヌヤウデアリマス、太政官

布告ニ依リ調査シタル以後ノ法律ニ依リトアリマス、八石ト云フ……

○政府委員(松尾臣善君) ソレデハモウ一ツ申上ゲマス、私ノ前ノコトヲ御問ニナルノカト思ッテ居リマシタ、後ノコトノ御質問デアリマスル、明治四年七月二十四日ノ祿高ヲ調製シタル其以後ト申シマス、明治四年七月二十四日以後ニ誤リガアツタ時分ニ、訂シヤウガナイデハナイカト斯ウ云フ……

○(高須賀禮君) 其誤リガアツタモノヲ以テ、是ガ藩ノ制度デアルト云フコトヲ言ツタ日ニハ、殆ド其誤謬錯誤ガアルコトアルモ、直スコトガ出來ナイ

○政府委員(松尾臣善君) ソレハ其錯誤ガ、ナイデハナイカト云フ御問デアリマスナラバ、聽ヘマスガ、錯誤ハ直スコトハ出來ナイト云フコトハ、チョット聽ヘナイ、ソレデ成程明治四年七月二十四日太政官布告ニ依リ調査シタル以後ノ祿高ニ、錯誤ト云フモノガナイデハナイカ、斯ウ云フ御問ヒナラ分ッテ居リマス、何故カナレバ其以前ノ制度ニ照シテ、其以前ノ制度ニ照シテ、誤謬ヲ訂正スルト云フノデアアルカラ、七月二十四日以後ノ祿高ニ、錯誤ガアラウ道理ハナイカト云フ御問ヒノヤウニ私ハ承リマシタ、ソレナラバ御問ガ能ク分リマシタ、ソレハ即チ明治四年七月二十四日ノ祿高ニハ、十石ト書イデアアル、然ルニ明治九年ニ金祿公債ヲヤル時分ニハ、之ヲ五石トシテヤルト云フヤウナコトハ、即チ質サウト斯ウ云フ意味デゴザイマス、前ノ方ノ調デ、錯誤ト言ヘバ、前ニ御話申上ゲタ通りノ、庚午九月十日ノ第一ノ改正ニハ十石、十二月ノ第二ノ改正ニハ八石ニナツタ、然ルニ四年七月ノ祿高調ニハ七石ニナツテ居ル、是ハ錯誤ダカラ直シテ呉レト、斯ウ云ッテ來タ時分ニ、八石即チ第二ノ改正ノ方ニ依ラウト云フノガ、此提出ラシマシタ法案ノ趣意デアリマス

○(高須賀禮君) モウ一ツ少シ私ハ、昨日ノ第一ノ第二項ヲ御別ケニナツタニ付イテ、私ハ御尋シタイデスカ、第一條第一項ノ其他ノ命令ニ依ッテ定メラレタル制度ハ、即チ或ハ公家旗本ノ部ニハ、此中央部カラ朝轄シタルモノニ適用スルノデアアル、第二ノハ各藩ニ於テアル所ノ制度ダト、斯ウ云フ御話ガアリマシタガ、各藩ニ於テモ、明治五年正月ノ第二十九號ノヤウナ布告ガ出テ居ル、其布告ニ依ッテ士族ニモナリ、尙ホ家祿モ遺ルト云フ所ノ布告ガ出タメニ、家祿ヲ貫ヒ士族ニナツタモノガアレバ、ソレハ矢張明治四年七月十四日最期ニ定メタル制度デナクツテ、矢張サウ云フ各藩ニ行ハレテ居ル所ノモノデモ、第一條ニアリマス、條文ノ方ニ這入ルノデアリマス、這入ラナイノデアリマス、之ヲ伺ヒタイデス、斯ウ云フ事ヲ簡單ニ申上ゲ、兎ニ角前ニハ、祿制ガドウアツテモ、一應解放セラレテシマツテ、法律上士族デナカッタ、然ルニ明治五年正月二十九號ノ布告ニ依ッテ其者ガ新タニ士族ニナツタ、サウシテ家祿ヲ貫ツタ、斯ウ云フモノデスナリサウ云フモノニ付イテノ適用ハ矢張各藩ニ依ッテ起ツタモノデアアルカラ此布告布達ノ命令ニ依ルト云フ中ニ這入ルノデスカ伺ヒマス

○政府委員(松尾臣善君) 是ハ昨日モ御尋ネガゴザイマシタカ、私ハ是ハ這

入ラヌト云フコトヲ申上ゲタ併ナガラ今御尋ネニ依リマシテ成程アナタノ御尋ノ趣意ヲ昨日ハ十分解シ得ナシト見ヘルツレデ此布告ニ付キマシテハ其卒ガ世襲ノ姿ヲシテ居ルモノハ士族ニナルト云フコトハ今度出シタ法律ノ第一條ノ一號ニ依ッテ身分ガ士族ニナルツレカラ二十九號ノ終リノ方ニ最モ家祿ノ儀ハ從前ノ通り心得ベシトアル其家祿ノ制度ハト申シマスルト第二號ノ最後ニ定メタル制度ノ家祿ヲ貫フ斯ウ云フコトニナリマスデ昨日御尋ネノコトニ對シテハツレガ中央政府ノ定メタル制度ニ這入ラヌト云フコトヲ御答シタノデアリマスツレドモ身分ノ世襲シテ居ル者ハ士族ニ編入シテ居ルト云フコトハ是ハ政府ノ布達ノ方デ往クノデアリマスツレカラ家祿ハドウスルゾト云ヘバ矢張第二號ノ最後ニ定メタル制度ニ依ルスウ云フコトニナリマスツレデアリマスツレデ此今同出シマシタ法案ノ制度ト云フノハ重モニ祿制ヲ取ッテ居ルノデアリマスツレ故ニドコノ條ニコレガ依ルゾト仰ッシヤルト祿ヲ訂ダスコトハ第二號ノ制度ニ依ラナケレバナラヌ然ラバ身分ハドウスルゾト云ヘバ此法律ニ於テハ見テ居ラヌ見テ居ラヌガ二十九號ノ法律ノ働キニ依ッテ無論此布達ノ效力ニ依ッテ士族ニナル譯デアリマス

○(高須賀禮君) 私ハドウモオカシイト思ウノハ政府ノ布達布告ノ命令ニ依ッテ士族ニナル尙ホ家祿モ二十九號ノ布達ニ依ッテ士族ニナル家祿ヲ貫タト云フコトニナレバ矢張第一號ニ私ハ這入ルベキモノデアラウト思フサウシマセヌト云フト政府委員ノ御考ノ如キ意思ガアルト云フトモウ少シ意味ヲ加ヘヌトオカシクナルダラウト思ヒマス

○政府委員(松尾臣善君) 御問ハ少シク今日提出シテ居リマスル法律案ノ外ノコトニナリハシマセヌカ此今日提出致シテ居リマスル此法律ノコトハ全ク祿ノコトバカリデゴザイマス身分ノコトニ附イテハ少シモ此中ニ這入ラヌノデゴザイマス身分ガ士族ニナルト云フコトハ即チ今仰セラレタ二十九號ノ布告ト云フモノガ……

○(高須賀禮君) チョット御注意シマスガ尤モ家祿ノ儀ハ從前ノ通り心得ヘシトアル……

○政府委員(松尾臣善君) マダアリマス……ツレデ祿ノコトニナリマスルト此尤モ以下ノ所ハドコニ當ルカト云ヘバ舊藩ノ制度ニ依ッテ祿ヲヤルツレ故ニ第一號ノ制度ニ依ルコトガ當前デアルト云ヘバツレハ充テル制度ハ何モナイノデアリマス中央政府ノ極メタ布告布達ニハ……

○(多田作兵衛君) 今少シ御尋シテ置キマスガ今八石ガ七石ニナツタ六石ニナツタノハ制度ニ依ッテ來タシタト云フ御解釋ガアリマシタガマルデ祿ヲ割シタモノハドウナリマスカ其當不當ヲ調ベルニ付イテハ……

○政府委員(松尾臣善君) 誤ッテ祿ヲヤラヌ又其祿ヲ割ダベキ理由ノナイ道理ノナイモノガ祿ガ渡ラヌデアッタト云フノハ其制度ニ依ッテ戻スベキモノデアラウト思ヒマス

○(多田作兵衛君) ケレドモ藩制ノ第四號ヲ行ハナイタメニ暇ヲヤッタ例ヘバ十八デモ二十人デモ經費ヲ節減スルト云フ趣意トカ何ントカ云フコトデ暇ヲヤッタ……

○政府委員(松尾臣善君) ツレガ即チ其制度デアリマシタラバ即チ其制度ガ……

○(多田作兵衛君) 制度ト云フノハ暇ヲヤッタノガ制度デアリマスカナ

○政府委員(松尾臣善君) 若シツレガアリマシタラ例ヘバ制度ニ依ッテ何ノ者ハ暇ヲ遣シマスルツレコトニナツテツレガ成立シテ居レバ即チツレガ制度デアリマス併ナガラ何モサウ云フコトガナシニ勝手次第ニ何某ハ憎サウナ顔ヲシテ居ルカラ暇ヲ出ス……

○(多田作兵衛君) ツレハ憎サウナ顔デナクシテモ金ノ足ラヌタメニ二十人三十人ニ暇ヲヤッタ制度ノ上ヂヤ五十石三十石二十石トチャント制度ガ立ッテ居ッテ……ツレガ大分アリマスガナ

○政府委員(松尾臣善君) 其事ガチャント制度ニナツテ居リマスル以上ハ已ムヲ得ナイツレハ事實問題デゴザイマシテ今此處デ架空デ御答スルコトハ困リマス

○(高須賀禮君) 政府委員ノ意思ヲ能ク確メテ置キタイノハ各藩ノ制度ニ解放セヨ例ヘバ士下卒ハ解放スルトカ或ハ下士卒ハ解放スルトカ暇ヲ遣ハストカ云フヤウナ制度ガ中央政府カラ出テ居ラヌノデスナ

○政府委員(松尾臣善君) 中央政府カラサウ云フコトハ出シテ居リマセヌケレドモ即チ各藩ノ其見込ヲ定メテ斯ウ云フコトニ致スト云フコトヲ言ッテ太政官ニ出シテ太政官ガツレヲ認メタ以上ハ即チツレガ制度ニナルノデアリマス丁度今日皆様ノ御議シ下サルヤウナコト、同ジコトデ即チツレガ適法ノ法律ノ力ヲ有ツノデアリマス

○(小山久之助君) 高須賀君ノ御尋ネニナツタコトニ付テ今一應確メテ置キタイ此參考書ノ七十三頁ノ處ニ「世襲ノ卒ハ士族ニ編入ス」ト云フノハ只今ノ御答辯ニ依ルト家祿ノ儀ハ此第一條ノ第二號ニ依ルツレカラ身分ハ第一號ニ依ルト云フコトヲ御答辯デゴザイマシタガツレハ私ハ分ラヌト思フ身分ノコトヲ之ハ規定シタ法律ニアラズシテ家祿ニ關スルコトダケヲ規定シタ法律デアルト政府委員ノ只今御答辯ノ如ク斯ウ解釋スレバ宜イノデアリマスカ政府ノ布告布達其他ノ命令ニ依リ定メタル制度ト云フノデ先ヅ以テ家祿ヲ得ルノ權利ガ出來タ布告ノ結果トシテ……ツレカラ其家祿ヲ幾ラ渡スカト云フ算盤ヲスルノガ第二號ノ各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度ノ之ヲ標準トシテ御定メニナル斯ウ解釋スレバ宜イノデアリマスカ

○政府委員(松尾臣善君) 往途ハ今仰セラレタ通りデアリマス併ナガラ私ガ此身分ハ第一號ニ依ッテ身分ガ極マルノヂヤト申シタノハ矢張誤リデ一號ノ中ニハ身分ノコトハ含ンデ居リマセヌ併ナガラ二十九號ノ布告ノ如ク此世襲シテ居ルモノハ士族ニ仰付ケラレルト云フコトハ、此布告ノ力デ、モウ士族

ニナリ得ルノデゴザイマス、ナツタ以上ハ家祿ハドウシテモヤル譯デゴザイマス

○(小山久之助君) 分リマシタ

○(高須賀禮君) 政府ノ御見込デハ免ニ角或法律命令ニ依ッテ一應士族ニハシタ——士族ニハシタガ、又祿モ渡スベキモノデアルト云フヤウナコトニナツテ居ルニモ拘ハラズ、ツレカラ後ニ復祿ノ恩典ヲ蒙ラヌ、サウ云フ復祿ノ恩典ヲ蒙ラヌ者ニ向ッテハ、政府ハ今マデ復祿ヲスベキ所ヲ復祿ヲセズシテ、唯士族ナリニシテ置イタモノハ、矢張此際復祿ハサシテヤルヤウニナルデスカ、士族デアッテ貰フベキ祿ハアッテモ、時トシテハ士族ニハシテヤル、併ナガラ祿ハヤラヌト云フヤウナコトニモナルデスカ

○政府委員(松尾臣善君) 士族ニナリマスノト、祿ヲヤリマスノトハ、是ハ二ツ別ニナツテ居リマス、士族ニナリマシテモ、元々無祿ノ士族ハ祿ハ固ヨリヤラヌ、士族ト云フモノハ、必ズ祿ガ附イテ居ルト云フ譯ニハ往キマセヌ、併ナガラ祿ヲ持ッテ居ルベキ士族ノ身分デ士族ニナツタケレドモ、家祿ハ明治六年ト明治九年ノ失權事項ノ布告ニ依ッテ貰フコトガ出來ナシタト云フヤウナモノデアリマシテ、サウシテ其人ガ矢張り錯誤ニ依ッテ貰ハナケレバ、勿論此五十號ニ這入ッテ居リマス

○(林彦一君) モウ大抵分リマシタガ、庚午ノ九月ノ十日ニ二人扶持若クハ三人扶持ヲ貰ッテ居ッテ、庚午ノ十二月ニ更ニ制度ヲ更メテ其制度中ニハ、別ニ暇ヲ遺ストカ、或ハ祿ヲ引上ゲルトカ云フコトハ、明記シテナイヤウナモノガ、若シ四年ノ七月ノ二十四日ノ調ノトキニ、其調査中ニ載ッテ居ラヌモノハ、最初ノ九月十日ニ貰ッテ居ッタ二人扶持若クハ三人扶持ヲ與ヘルコトニナリマス

○政府委員(松尾臣善君) ツレハ又事實上ノ問題ニナリマシテ、少シ困リマスガ、是ハ制度ノ方ノ御議シテ願ヒタイノデ、何某ト云フ者ガ九月ノ十日ニ二人扶持ヲ貰ッテ居ッタ者ガ、改正ノ際何モ貰ハヌト云フコトハ、即チ事實問題ニナリマス、斯ウ云フコトヲ御考ヲ願ヒマス、九月十日ニ二人扶持ヲ持ッテ居ッタ者ガ、十二月ノ改正ニハ一人扶持ニナツテ居ッタト云フコトハ、先ヅ茲デ制度ト云フ字ヲ認メテ戴キタイ、サウシテ茲ニ何某ト云フ人ガアル、是ハ元二人扶持持ッテ居ッタガ、ツレガ十二月ノ改正ニハ一人扶持モ貰ハヌト言ヘバツレガ若シ處分ニ漏レタトカ、誤リデヤラヌトカナラバ、ツレハ一人扶持ヲヤルコトニナリマセウ、ツレハ事實問題ニナリマスカラ

○(林彦一君) サウスルト其庚午ノ十二月ノ改正ノトキニ明記シテアルトナ

イトニ依ッテ、生ズルデスカ

○政府委員(松尾臣善君) ドウモ矢張アナタノ御問ハ、事實問題ト制度問題ガ同ジニナツテ居ルヤウニ思ヒマスガ、九月十日ニハ二人扶持ヲ持ッテ居ル者モアルシ、其二人扶持ヲ持ッテ居ル資格ノ者ガ、十二月ノ改正ノトキニハ一人扶持ニシタ、之ガ祿制ナンドス、即チ制度ナンドス、ツレカラモウ一ツ今

度ハ事實問題ニナルト、九月十日ニハ二人扶持ヲ貰ッテ居ッタ何某ガアル、十二月改正ノ時分ニハ制度ニ依レバ、一人扶持ヲ貰ハナケレバナラヌデアアル、然ルニ其人ニハ渡シテナイ、其渡シテナイノハ、即チ錯誤ニ依ッテ渡シテナケレバ、渡スト、斯ウ云フコトニナルノデ、制度ト事實問題ヲ分ケテ御議シテ願ヒタイ

○(林彦一君) 多田サンカラ先程御尋ネニナツタ通り、庚午ノ九月ノ十日ニハ二人扶持ヲ貰ッテ居ッタモノガ、十二月ノ改正ノトキニ一人扶持ニナツタモノハ、ツレハ從前二人扶持ノモノハ一人扶持ニスルト云フコトヲ制度ニ記載シテアルカラ宜イガ若シ其時ニ何モ貰ハナイモノガアル、其何モ貰ハナイモノガアル場合ニハ、其制度中何ノモノハ暇ヲ遺スト云フコトガ明記シテナレバ、ツレハ其明記シテアル制度ニ依ッテ貰ハヌノダガ、何モ明記シテナイ以上ハ、貰フベキモノガ貰ハヌデアアルカラ、初メニ歸ッテ渡スベキモノデアラウ、斯ウ云フノデ、事實問題デハナイ

○政府委員(松尾臣善君) 矢張事實問題デ、ツレデ何某ト云フ者ガ、私ハ元二人扶持貰ッテ居ッタ、十二月ノ改正ニハ一人扶持ト云フコトノ祿制ノ制度デアアル、其制度ニ適合スル吾々デアアル、然ルニ私ハ貰ハナシタ、斯ウ云フコトガ出テ來ル、ツレガ事實問題、ツレデ其者ガ證據書類ヲ調ベテ見テ——證據物ヲ調ベテ見テ、果シテ十二月ノ改正ニハ一人扶持ヲヤルベキモノナラバ、ツレハヤランナラヌコトニナルト、斯ウ申シマシタ

○委員長(濱名新平君) 事實問題デモ、ツレハ御答ニナツテ差支ナイヤウデスナ、明言シテ戴カヌト……

○政府委員(松尾臣善君) 御答ヘハスルノデスガ、併シ事實問題ハ申上ゲニクイノデス

○(岡本松太郎君) モウドウデセウ、意見ニ移リマシテハ

○(多田作兵衛君) 私ハ此第一條ヲマルデ削除致ス意見デゴザイマス、サウシテ二條ヲ一條ト爲シ、三條ヲ二條トナスヤウニ、ズツ線上ゲル積リデゴザイマス、削除ヲ致シマス理由ヲ述ベテ置カンナラヌガ、法律ヲ施行スルニ至リマシテハ、法ノ精神ヲ取違ヘヌヤウニ致スト云フコトハ、是ハ喋々ヲ要セヌコトデアアルノデゴザイマス、ツレデ私共ガ此法律ヲ提出致シマス所ノ精神ハ、此法文ノ上ニ明治三年九月十日前ト云フコトヲドウ云フ譯デ茲ニ書キマシタカト申シマス、九月九日ノ日マデハ生殺與奪ノ權ガ藩主ニアリマシタノデアリマス、此九月十日ノ後ハ生殺與奪ノ權ガ其時デハ朝廷ト申シマシタ政府ニ移ッタノデゴザイマス、ツレ故ニ是ハ生殺與奪ノ權ノ有無ヲ定メルタメニ、茲ニ區切リヲ附ケタノデゴザイマス、是ハ九月十日、ツレデ家祿賞典祿ヲ有スルモノト書キマシタモノハ、九月十日ニ家祿賞典祿ヲ有シタモノデアアルト云フ精神デゴザイマス、右ノ例證ヲ證據ト致シマスルニ付イテハ、此法文ハ政府ガ其時此復族事件ニ附イテ、内務省デヤツテ居ル規定ヲ標準トシテ、第一條ヲ定メマシタ、今内務省デ施行致シテ居リマス明治二十七年法律

第二十號ハ、平民ガ士族ニ編入セラル、ニ附イテハ、明治三年九月九日マデノ分ハ、如何ナル證據ガアツテモ、編入ガ出來ヌ、九月十日後デハ士族ノ證據ガアレバ、平民ガ士族ニ加ヘラレル、是ハ所謂權限ヲ分ケタヤウナモノデゴザイマス、右ノヤウナ都合カラ起點ト致シマシテ、九月十日ニ家祿賞典祿ヲ所有シタモノト云フコトヲ定メタノデ、是ガ政府ノ此五十號ヲ解セラレテ居ル所ト、私共提出者ト違ヒガ出來テ居ルノデゴザイマス、其事ハ私共提出者トシテハ、少シモ間違ノナイト云フコトハ、明治三十一年一月四日ニ書面ヲ大藏大臣ニ出シマシタ、何故出シタカト云ヘバ、其時私共提出者ノ考デハ、政府ノ側デハ成ルテ此五十號ノ範圍ヲ狹クスルト云フ論ガ、内輪ニ起ツテ居ルト云フコトヲ承リマシタ、是ハ以テ外ノコトデアル、吾ミ提出者ハ法ノ精神ヲ早ク出シテ置カシナラヌト申シテ、委員長タル濱名君モ連名デ、深山ト云フ人ト私共ヤ其他ノ人々ガ、大藏大臣ニ法ノ精神ヲ出シテ居リマス、今日私共此席デ之ヲ作ツテ申上ゲルノデナク、私ノ提出者タル精神ノ間違ハヌタメニ、今ノ例證ヲ引イテ申上ゲマシタ、ドウモ第一條ニ付イテ色々昨日ヨリ質問ヲ致シテ見マシタ所ガ、未ダ各藩ニ於テ施イタル所ノ制度ハ、一二ハ見マシタケレドモ、是ハ古イコトデゴザイマスカラ、ドウ云フ制度ガ何時頃施イテアルカ、或ハ藩ニ依ツテハ大藏省ニ其書面ノナイヤウナコトモアリハシマイカト云フコトモアリマス、ソレハ御答辯デモ、サウモアリマシタ、ソレカラ又願人ノ高ヲ承リマスレバ、數ガ貳万何千通、人員ガ貳拾何万ト云フ答辯デゴザイマス、所ガ之ニ付キマシテモ、是ハ法ニ適合シテ居ルヤ否ヤト云フヤウナコトモ、又金高ガナシボニナルト云フヤウナ所モ、未ダ御調ガ立ツテ居リマセヌ、ソレデ此法ヲ立テマスルニ附イテハ、此五十條ノ解釋デゴザイマスガ、成ルベク多數ノ人ニ恩惠ヲ與ヘタイト云フ慈善的ノコトデゴザイマスルケレドモ、又非常ナ多額ニナルト云フヤウナコトナラバ、或ハ一考ヲセネバナラヌト云フヤウナ場合モゴザイマス、私ノ考ヘマス所デハ、私共ガ法律ヲ提出致シマスルニ付イテ、各藩カラ願出タ高ヲ算盤ニ締メ上ゲテ見マシタガ、凡ソ七百萬圓バカリノ高ニナツテ居タ、ソレデアルカラ千萬圓ト云フ豫算ヲ立テ、此法律ヲ制定スレバ、ソレヨリ上ニハ參ルト云フコトハアルマイト云フ考ヘデゴザイマシテ已其當時ニ答辯ヲ致シテ居ツテ、已ニ此法ヲ立テルトキニ、千萬圓ノ公債ヲ與ヘルト云フコトハ、イヅレモ認メテ居ルノデゴザイマス、今日ノ所デハ未ダ貳拾何万人モ請願シテ居ル中ガ何万人適法ナルヤ否ヤモ分カラズ、金高モ明瞭ニナシボニナルト云フコトモ分カラヌ、一体是迄政府ガ法律ヲ出スニ附イテ、參考書類ハ先ヅナイト云フテ可ナリト云フアリマスガ、此法律案ニ附イテハ參考書類ハ先ヅナイト云フテ可ナリト云フヤウナコトデゴザイマス、ソレ等ノコトデ、政府ヲ責メルノデハゴザイマセヌ、願ノ數ノ多イコトデアリマスカラ、御調モムヅカシカラウト存ズル所モアリ、又二十何万人ノ前ノ制度ヲ調ベルコトデ、容易ナラヌコトデアリマスカラ、政府ヲ咎メルノデハアリマセヌガ、此法ヲ立テ、置クハ、ドウ云フ結果ニ

ナルト云フ事實ノ上ニハ、少シモ見ルベキモノハアリマセヌ、ソレデ私ハ此箇條ヲ除カレテモ、政府ハ政府ノ見ル所ヲ以テ、是カラ調査セラル、ニ問アリマセヌ、又如何ニ政府ガ急イデ一日モ速ニ公債ヲ渡シテ安堵セシメヤウト云フ思召ガアルト云フコトハ、飽迄察シテ居リマスケレドモ、今其精神ヲ以テ政府ガ急ガレマシタ所ガ、二十何万人ノ證據書類ヲ調べテ、開届ケルカ開届ケヌカヲ極メルト云フコトハ、容易ナコトデアリマセヌ、少ナクトモ十ヶ月以上ハ掛ラヌケレバ出來ヌコト、思ヒマス、サウ致シマス此一條ヲ削除シタメニ、ドウシテモ施行ガ出來ヌト云フ場合ニハ、此次ノ議會ノ始メニ又一ノ法案ヲ御出シニナツテ運カラヌコト、思ヒマス、ソレデ斯ウ云フ法ヲ立テマシテ、二十何万ト云フ多數ノ人ガ、ドウ云フ思フ致シテ居ルカト云ヘバ、此祿ヲ剝ガレマシタモノハ、明治三十四年カラ一昨年迄ノ間ト云フモノハ、艱難辛苦ヲ致シマシテ、非常ナ運動ヲ致シマシタ末デゴザイマス、其結果トシテ出來マシタ五十號ガ、參考書類ハ足ラズ、考案ノ立タヌ所ノ此第一條ト云フモノヲ輕卒ニ私共ガ協賛ヲ與ヘタタメニ萬々一適當ニ這入ルベキ所ノモノガ、法ノタメニ剝退ケラレ除ケラルベキモノガ這入ルト云フコトデモ、アレバ甚ダ私共遺憾千萬ニ思ヒマス、故ニ今日ノ所デハ此一條ヲ除キマシテ、二條以下ニ協賛ヲ與ヘテ置ケバ、活用ハ附キマス、若シドウシテモ一條ガナケレバ、イカスト云フ場合ニハ、其時ニ協賛ヲ與ヘルコトニシテ、今日ハ之ヲ削除スル意見ヲ提出シマス

○(望月長夫君) 唯今多田君カラ第一條削除ノ御論ガ出マシタガ、私モ最初ハ殆ド多田君ト同様ナ考ヲ持ツテ居リマシタケレドモ、熟考致シマシタ後ニ於テ、此第一條ヲ存シテ、決シテ法律五十號ノ精神ヲ大ニ破ル氣遣ヒハナイト云フ論結ヲ得マシタ、勿論法律第五十號ト云フモノハ、法律自身ガ自分ニ曖昧ナ法律デアル、サウシテ此法律ノ出來タ當時ノ歴史ヲ考ヘテ見ルト、衆議院デ議定致シマシタ場合ノ意思ト、貴族院ガ更ニ之ニ向ツテ修正ヲ加ヘタ意思ト、此二ツノ法案ニ對スル政府ノ意向ト、斯ウ三ツノモノガ、決シテ一致シテ居ナカッタト云フコトハ、今日當時ノ議事録ヲ讀シテ見テモ、明白ニ分リマス、ソレデ私ガ明言シ得ルコトハ、此第一條ハ少シモ衆議院ガ第五十號ノ法律ヲ議シテ居タル所ノ精神ニハ、大ニ制限ヲ加ヘタモノデアルト云フコトヲ認メルコトガ出來ルケレドモ、貴族院ガ更ニ之ニ向ツテ明治四年七月二十四日祿高ニ關スル云々カラ、錯誤ガアルトキハ云々ト云フ文字ヲ加ヘタ精神ト、比較シテ見ルト、即チ今日成文トナツタ、貴族院ノ修正ヲ加ヘタ成文ト照合セテ解釋致シテ見マスルト、今日政府カラ持出シマシタ、此第一條ハ餘リニ精神ニ相違ガナイト思フノデアアル、此明治四年七月十四日前各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度、此文字ダケ讀ミマスレバ、多田君ノ御述ベニナルヤウニ、明治三年九月十日ト云フ文字ガ全ク消ユルケレドモ、是ハ決シテ私ハ消エヌト思ヒマス、段々政府ノ意思ヲ質問シテ定メテ見マスルノニ、明治三年九月十日以後ニ家祿賞典祿ヲ持ツテ居ッタモノト、斯ウ云フ意味ハ少シモ打消

ナルト云フ事實ノ上ニハ、少シモ見ルベキモノハアリマセヌ、ソレデ私ハ此箇條ヲ除カレテモ、政府ハ政府ノ見ル所ヲ以テ、是カラ調査セラル、ニ問アリマセヌ、又如何ニ政府ガ急イデ一日モ速ニ公債ヲ渡シテ安堵セシメヤウト云フ思召ガアルト云フコトハ、飽迄察シテ居リマスケレドモ、今其精神ヲ以テ政府ガ急ガレマシタ所ガ、二十何万人ノ證據書類ヲ調べテ、開届ケルカ開届ケヌカヲ極メルト云フコトハ、容易ナコトデアリマセヌ、少ナクトモ十ヶ月以上ハ掛ラヌケレバ出來ヌコト、思ヒマス、サウ致シマス此一條ヲ削除シタメニ、ドウシテモ施行ガ出來ヌト云フ場合ニハ、此次ノ議會ノ始メニ又一ノ法案ヲ御出シニナツテ運カラヌコト、思ヒマス、ソレデ斯ウ云フ法ヲ立テマシテ、二十何万ト云フ多數ノ人ガ、ドウ云フ思フ致シテ居ルカト云ヘバ、此祿ヲ剝ガレマシタモノハ、明治三十四年カラ一昨年迄ノ間ト云フモノハ、艱難辛苦ヲ致シマシテ、非常ナ運動ヲ致シマシタ末デゴザイマス、其結果トシテ出來マシタ五十號ガ、參考書類ハ足ラズ、考案ノ立タヌ所ノ此第一條ト云フモノヲ輕卒ニ私共ガ協賛ヲ與ヘタタメニ萬々一適當ニ這入ルベキ所ノモノガ、法ノタメニ剝退ケラレ除ケラルベキモノガ這入ルト云フコトデモ、アレバ甚ダ私共遺憾千萬ニ思ヒマス、故ニ今日ノ所デハ此一條ヲ除キマシテ、二條以下ニ協賛ヲ與ヘテ置ケバ、活用ハ附キマス、若シドウシテモ一條ガナケレバ、イカスト云フ場合ニハ、其時ニ協賛ヲ與ヘルコトニシテ、今日ハ之ヲ削除スル意見ヲ提出シマス

サヌノデアアル、其九月十日以後ニ家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッタモノニシテ、明治九年祿高整理公債ヲ渡ストキニ、九月十日以後ノ分ハ持ッテ居ッタモノ、高ノ相違ノアツタ場合ニ、此相違ハ果シテ錯誤デアアルカ、錯誤デナイカト云フコトヲ定メル標準ガ一ツ要リマス、是ガ錯誤デアアルカ、錯誤デナイカト云フコトヲ定メル標準ハ、適法ノ權力ニ依ッテ適法ニ定メラレタ祿高デアアルカ、將タ又不法ノ處分或ハ手落等デ生ジタモノデアアルカ、此事ヲ定メル必要ガアル、是ヲ定メルノハ詰リ適法ノ權力ニ依ッテ定メラレタ制度ヲ本トシテ、此制度ニ違ッタ給與シカ受ケナイ場合ハ、即チ錯誤デアアル、之ヲ適法ノ給與ト比較シテ、サウシテ此適法ノ祿高ト相違ノナイモノハ、即チ錯誤ノナイモノデアアル、斯ウ云フ一ツノ標準ヲ極メル必要ヲ認メテ、即チ明治三年九月十日以後ニ有シテ居ッタモノニシテサウシテ其祿高ヲ極メル標準ハ、即チ明治四年十四日前ニ定メタ適當ナ權力ニ依ッテ定メタ各藩ノ制度ニ依ラネバナラヌ、斯ウ云フデアアル、ツレダカラ明治三年九月十日以前ニ、既ニ祿高ノ改正ガアツテ、極ツタ祿高ヲ持ッテ居ルモノガ、明治三年九月十日以後ニ引續イテ、ツレダケノ家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッテ、或ハ藩廳ヘ引繼ノ際トカ、何トカ云フ際ニ、ツレガ手落ニナッタノデ、別ニ明治三年九月十日以後、明治四年七月十四日以前、此中間ニ其藩ニ於テ改正シタコトノナイモノハ、當然支給スルデアアル、又明治三年九月十日以後ニ其藩ニ於テ適法ニ祿高ヲ改定シテ、其改定ノ中ニ包含セザルモノ祿高ヲ改定セズシテ、若シ違ッテ各藩ガ勝手ニ若モ秩祿解放ト云フ處分ヅシタモノハ、此祿制改正ノ中ニ這入ラナイモノガアルカラ、其モノニハ無論支給スル筈デアアル、總テ明治三年九月以後ニ適法ニ定メタ各藩ノ祿高ノ制度ヲ標準ニシテ、此制度ニ從ッテ受ケネバナラヌモノガ受ケナカッタ場合ハ、錯誤デアアル、斯ウ云フ風ニ極メテ來タノデアアルカラ、ツレデ私ガ此法文ヲ見ルニ、明治三年九月十日以後ト云フモノモ、衆議院ノ意思ト多少違フノハ、貴族院ノ加ヘラレタル明治四年七月十四日前云々ト云フ制限デアアル、此制限ニ依ッテ此標準ガ生ジテ來タノデアアルカラ、是ハ私ハドウシテモ若モ今日デス此貴族院ガ明治四年四月云々ノ差加ヘラレタ文章ヲ取除ク、即チ此法律ニ改正ヲ加ヘレバ格別デアアルケレドモ改正ヲ加ヘザル以上ハ、先ヅ法文ノ上カラ解釋スル以上ハ、政府ガ若モ強テ範圍ヲ狹クスル意思ナシニ、今第一條ノ儘各藩ニ於テ適法ノ制度ニ依ッテ、此適法ノ制度ヲ標準ニシテ處分シタト云フコトデアアレバ、強テ第五十號ノ成文ノ精神ニハ違反シナイと思フ、是ガ私ガ法理ノ上カラ此第一條ハ餘リ差支ナイと思フ、勿論多田君ガ御述ベニナッタ、政府ハ斯様ナモノヲ極メズトモ、政府ハ法律ヲ施行スルニ必要ナル命令ヲ定メル權利ハ憲法ニ依ッテ與ヘラレテ居ルカラ、態々斯様ナモノヲ出サズトモ宜シイト云フコトハ、勿論一ノ道理ニ相違ナイケレドモ、是ガ若モ衆議院ガ議決セネバナラヌト云フコトヲ議決セズトモ宜シイト云フ方ニ、政府ガ解釋スルナラバ、私ハ承知シナイガ、政府ガ自ら己レノ權利ヲ捨テ、ハッキリ極メテ下サイト云ッテ、コナラヘ頼ンデ來タヤツヲ規定スル場合ニハ、唯其規定ノ當否サヘ穿鑿スレ

バ、私ハ差支ナイ、殊ニデス此五十號ノ法律ノ規定セラレタ以來、各藩々ノ舊士族カラ一日モ早ク此調査ノ結了ヲ望ミ、此法律ノ實行ヲ望ンデ、是迄非常ニ窮シテ、斯様ナ恩惠ニ浴シタイト願ッテ來テ居ルモノガ、マダ其上ニ運動費ヲ掛ケテ非常ニ苦心ヲ致シテ、非常ニ窮迫ニ陥ッテ居ル場合デアアルカラ、苟モ此五十號ノ法律ノ精神ヲ損セザル以上ハ、私ハ此法案ノ一日モ速ニ通過センコトヲ渴望シテ居ル士族ヲ一日モ早ク満足セシムルガ、當然デアラウト思ヒマス、勿論法律ノ規定ニ於テ、法律ヲ以テ限界ヲ定ムル規定ハ、イツデモ日ヲ以テ規定スルトカ、年ヲ以テ規定スルトカ云フトキニハ、其間ニ接近シタ場合ニ、幸福ナモノト不幸福ナモノトガ當然出來ルニ相違ナイ、此法律モ斯様ニ規定シマシタナラバ是ニ依ッテ此中ヘ這入ルモノト、此中ヘ漏レルモノトノ二ツノ限界ニハ、區別ノ場所ニハ隨分是ト是トガ違ッテハ、氣ノ毒デナイカト云フコトノ生ズルモノガ勿論アラウケレドモ、是ハ實ニ餘儀ナイ法律ノ制定法律ノ制定ト云フコトヲ必要トスル以上ハ、所謂境目ニ杭ヲ建テタ以上ハ、此境目ノ處ニ相接近シタモノニ不公平ガ出來ルト云フコトハイケナイ話デアアル、一方ニ既ニ救済ノ途ヲ開イタ以上ハ、是ニ接近シタル不幸ノ者ヲ拾置クコトガ出來ヌト云フコトハ、更ニ之ヲ救済スレバ宜シイ、五十號ニ依ッテ制定セラレタルモノハ、五十號ニ依ッテ其處分ヲ完結スルコトガ至當デアラウト信ジマスカラ、私モ十分満足ヲ表スル譯デアアリマセヌケレドモ、此際一日モ早ク此法ヲ施行セラレンコトヲ希望致シマスカラ、速ニ本案ハ協賛アラントコトヲ希望致シマス

○(高須賀樓君) 私ハ少シ修正ヲシタイト思ヒマス、ツレハ此第一條ハ即チドウ云フコトデアアルカト云フト、五十號ノ法律ニ依ッテ處分スル所ノ調査ヲスル標準ヲ示シタモノデアラウト思フ、又第二條以下第五條マデニ至ル方ハ、五十號ノ法律ノ不備ヲ補ッタノデアアル、サウ云フコトデアアルカラシテ、之ヲ若シ第一條ヲ多田君ノ如ク削除スルコトニナッタナラバ、殆ド此五十號ノ調査ヲスル標準ガ更ニナイト云フコトニナッテシマフダラウト思ヒマス、私ハ政府ガ茲ニ調査スル標準ヲ定メテ吳レロト云フコトデアアレバ、是ハ是非其標準ヲ茲ニ置カナケレバナラヌト云フ精神カラ致シマシテ、第一條ヲ削除スルコト云フコトハ、甚ダ宜シクナイコトデアアルト私ハ考ヘルノデアアル、併ナガラ多田君ノ言ハレル如ク、其削除スルコト云フ所ノ精神ヲ能ク叩イテ見ルト云フト、明治四年七月十四日前各藩ニ於テ定メタル制度ト云フモノハ、免ニ角不都合デアアル、斯ウ云フコトガ原因ニナッテ、第一條ヲ削除シタイト云フコトデアアラウト思フ、併シ私ガ思フニ、其御懸念モ御尤ノ次第デアラウト、私ハ考ヘマヌルガ、併シ此藩制施行以後ニ於キマシテハ、即チ明治三年九月十日以後ハ、各藩ニ於テハ生殺與奪ノ權ト云フモノハ、モウナクナッテシマッテ居ル、然ルニ此生殺與奪ノ權ガナクナッテ居ル所ノ此各藩ノ定メマシタ所ノ、最後ニ定メタル所ノ制度ト云フモノヲ失張眞正ナモノデアアル、是ハ不都合ナモノデナイト云フコトヲ法律上デ認メルト云フコトハ、甚ダ私ハ不都合デアラウト思

フ、ツレ故ニ此各藩ニ於キマシテ、ドウカト云ヒマスルト云フト、錯誤カラ或ハ不當處分カラ致シマシテ、沒祿スベカラザルモノヲ沒祿シ、又各藩ニ依リマスルト剝祿スベカラザルモノヲ剝祿シタリト云フヤウナ、實ニ不當不法ヲナシテ居ルモノモアラウト思フ、ツレ故ニ私ハ此明治四年七月十四日前各藩ニ於テ最後ニ定メタルト云フ下ヘ適法ノ制度ト云フコトヲ入レタイノデアリマス、サウ致シマスレバ果シテ政府ニ於テ此制度ガ適法デアルカ、不適法デアッタナラバ、政府ニ於テ之ガ不都合ヲ直スコトガ出来マスルカラ、茲ニ適法ノト云フ三字ヲ第一條ノ第二項ニ置キタイト考ヘマスノデアリマス

○(岡本松太郎君) 私モ高須賀君ノ如キ文字ヲ以テ修正ヲシタイト云フ考ヲ持ッテ居ッタケレドモ、此適法ト云フコトガ、總テ政府委員ノ答フル所ニ依ルト、總テ藩知事ガ九月十日以後ニハ如何ナル理由ガアルニモ拘ハラズ、政府ハ認メテ適法トスルト云フ、政府委員ノ先刻來カラ段々自分ノ質問ニ對シテノ答デアル、サウスルト云フト此適法ナリト云フ文字ヲ加ヘテ以テ、第二項ノ修正ヲ致シマシテモ、殆ド無効ニ屬スルノデアル、ツレ故ニ私ハ寧ロ多田君ノ即チ此削除說ニ賛成シタイト考ヘル、何ゼカト云フノニ成程法律第五十號ノ成文ヲ正シク解釋致シマスレバ、取リモ直サズ望月君ノ御論ノ如クナルケレドモ、抑、此法律五十號ト云フモノヲ發令セシメマシタ趣意ハ、イヅレニアルカト云フト、衆議院ノ案ニ貴族院ガ修正ヲシテ、ツレニ政府ガ贊同ヲシテ出シタノデ、系統ノ力ト云フモノハ、衆議院ニアルノデス、當時衆議院ガ之ヲ出シタト云フ趣意ハ、イヅレニアルカ、左様ナ受取ルベキモノガ未ダ受取ッテ居ナイトカ、或ハ救助スベキモノヲ未ダ救助シテ居ラヌトカ、又此外ノ錯誤ヨリ生ジタモノニ與ヘルト云フガ如キ、單純ナ趣意デハナイ、法文ノ如クデアレバ、何モ衆議院デワイノ言ッテ、議論スル必要モナイ、又衆議院ヨリスノ如キ法律第五十號ヲ出シテ、之ヲ提案セヌデモ宜シイノデアル、或ハ又士族ガ多年ノ間色々研究シテ以テ、吾々議會ニ向ッテ訴ヘル必要モナカッタノデアル、然ルニ此衆議院デ以テ之ヲ可決シマシタル所ノ趣意ト、スッカリ法文ガ今日デハ改ッテ居ル、ツレ故ニ私共ハ、モウ一旦發令致シマシタル即チ法律第五十號デアルカラ、之ヲ如何トモスルコトハ出来ヌノハ、無論ノコトデアル、サリナガラ衆議院ガ之ヲ提案ヲ致シマシテ可決シタト云フ趣意モスッカリ減ジテシマフト云フコトハ、ドウシテモ出来ナイ、是ハ飽マデ私共ノ主張スル所デアル、ツレ故ニ第二項ヲ削除シテ、ドウ云フ利益ガアルカト云フト、此以後ト云フ文字ガ餘程一ツノ議論デアル、第二項ヲ政府案ノ如ク存シテ置クト云フト、是ハ仕方ガナイ、即チ法律五十號ヲ正面カラ解釋シタコトデアッテ、最初衆議院ガ提案シタ所ノ趣意ト、スッカリ違ウデシマフ、故ニ第二項ヲ削ッテ政府ノ解釋ヲ廣ク與ヘラレルヤウニスルト云フ考デアリマス、政府委員ニ段々此心得ト云フコトニ付イテ、昨日來カラ種々問答シテ見マシタガ、成程法律第五十號ノ成文ニ依ッテ尋ヲシテ見ルト云フト、政府委員ノ答ヘル所ヲ聞クト云フト、各藩デハドウ云フコトヲシテ居ルカト云フ

ト、藩債ガアリマセヌデモ、藩債ガアルト云フコトヲ口實ニシテ、サウシテ下級士族卒ナドニ祿ナドヲ減額シテ居ルト云フコトハ、是ハ事實デアリマス、或ハ一回ニシテ減シタモノモアリマセウ、又一回ニ減シタモノモアリマセウ、十石ノモノヲ八石ニ減シ、八石ノモノヲ六石ニ減シタト云フ、一回若クハ二回ニ減シタモノガアルニ違ヒナイ、サリナガラ以後ト言ヘバ、即チ十日以後例ヘ一日間ト雖モ、拾石持ッテ居ッタナラバ、即チ拾石ノ祿高ニ相違ナイカラ、是ハ各人ノ希望ニ應ジテヤラセルト云フコトハ、以後ト云フ文字ヲ廣ク解釋スルノニハ、ドウデモ出来ルダラウト思フ、ツレデ私共ノハ、法ノ成文カラ論ジマスレバ、此第二項ハ據ナイモノデアルケレドモ、ツレデハ衆議院ガ、五十號ヲシテ發セシメタル所ノ趣旨ニ違ヒマスルガ故ニ、本項ヲ削リマシテ、以後ト云フ文字ヲシテ、廣ク解釋セシムルト云フ意ヲ以テ、之ヲ削除致シマス

○(多田作兵衛君) 少シ述ベテ置カナケレバナラヌ、望月君ノ言ハレタヤウニ、一日モ早ク金ヲ渡シテ、安心ヲサセタイト云フノハ、恐ラクハ望月君ヨリモ、私ハ厚クモ劣リハセヌト思フ、所ガ此政府案ノ結果ト云フモノハ、望月君ノ考ヘルヨリモ、意外ノ結果ニナッテ、折角公債證書ヲ戴イテ、職ニ就カウト云フ人ガ、數萬落膽スルコトガ出来ルト云フコトヲ、私ハ今日ヨリ見抜クノデゴザイマス、ツレデ御承知ノ通り、是ハ行政處分ト云フモノハ、皆手心デゴザイマス、司法ノ仕事デサヘ、御承知ナサル通り、刑法ニ立派ニ明文ガアッテモ、情狀ヲ酌量スルト云フコトニハ、隨分餘地ヲ與ヘラレルノデ、今度ノ處分ト云フモノハ、此願書ヲ與ヘテヤラウトカ、ヤラヌトカ云フモノハ、大藏省ノ權力ハ、無上ノモノデアリマス、此位ノ分ハ取ッテヤッテモ、金高モ千萬圓位デ濟ムト云フコトハ、斯ウ云フヤウナ矢張刑法ノ情狀ヲ酌量スルヤウニ、成ルベク少シ證據ノ不十分デモ、採ッテ貫ヒタイト云フ方ヲ指シタ精神的ノ標準デアリマス、其標準ガ最後ノ制度ト云フコトニナッテ居リマス、違ヒガ出来ルノデゴザイマス、ツレ故ニ願ハクハ、此第一條ヲ削除致シマシテモ、施行者ニ一向支ヘガナイト信ジマス、萬々一支ヘガアルナラバ、此次ノ議會ニ出サレテ宜シカラウト思フ、私共ハ一日モ速カニ渡シタイト云フ精神カラ、其待ッテ居ル人達ノ多數ガ、案外ナ不幸ヲ被ムルヤウナ結果ガ来ルト云フコトヲ信ジマスルガ故ニ、尙ホ前言ヲ述ベテ置クノデアリマス

○(小山久之助君) 多田君ノ先程カラノ御說ヲ伺ヒマスルト、要スルニ御論旨ノ歸着スル所ハ、一條ヲ削ルト云フ御論旨デアリマスケレドモ、其議論ノ論旨ニ依ッテ見ルト、單リ一條ヲ削ルニアラズシテ、此條文ヲ延期シテ置クト云フ御論旨ノヤウニ考ヘルノデアル、何故ナラバ、大藏省ガ分ラヌナラバ、此次ノ議會ニ持ッテ來テ遅クナイト云フノデ、調査ハ不完全ダト云フノデ、參考書ハナイト云フノデ、此事ノ完成シタ後ニ、始メテ爲スベキコトデアルト云ハレルナラバ、何モカモ大藏省デスッカリ出来上ッタ後ニ、始メテ議會ノ協賛ヲ求ムベキモノデアッテ、今協賛ヲ求ムベキモノデナイト云フ論旨ニ歸着

スル議論デアル、此等ヲ出シテ置ケバ標準ナノデ、標準デアルカラ、二項ヲモ少シモ差支ナイ、當局者ガ是ニ標準シテ情狀ヲ酌量スルト云フコトハ、此標準ニ從ッテ刑法ニ明文ガアルト同時ニ、刑法ニ明文ガアツテモ、ソレニ當嵌メテ情狀ヲ酌量スルト同時ニ、大藏省デモ唯無上ノ大權ヲ與ヘテ、依怙偏頗勝手次第ト云フコトハナイ、大藏省ガ幾ラカ窮窟ニハナル、無上ノ權力ヲ與ヘルコトハ出來ナイ、制裁ガ加ハルノデアルカラ、誠ニ結構デアラウト思ヒマスカラ、第一條ハ全部賛成シテ、削除ニ不同意デアリマス

○(多田作兵衛君) 延期説ヲ頻リニ言ハレマスケレドモ、サウデナイノデ、已ムナクンバ此次ト云フノデアルカラ、第二條以下デ處分ハ出來ル、ソレカラ望月君ノ仰シヤリマシタ衆議院ノ提出案ヲ、貴族院ガ修正シタカラ、模様ガ變ッテ居ルト仰シヤルガ、少シモ變ッテ居ラヌ、唯衆議院ノハ、法文ニ粗イ所ガアリマシタカラ、緻密ノ文字ヲ加ヘタノデ、少シモ變ッテハ居ラヌト云フコトヲ、私ハ御非難ガアレバ、飽マデ辯明致シマス

○(林彦一君) 私モ此五十號ノ精神ニ依ッテ、之ヲ修正シタイト云フ考ヘデアリマシタケレドモ、ドウモソレモ行ハレヌヤウデアリマシテ、寧ロ多田君ニ賛成スル者デアリマス、ソレデ明治四年ノ七月十日前ニ、各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度ガ、政府デ指定シタル所ノ藩制ニ矛盾シテ居テモ、尙ホ其制度ヲ真正ノモノトシテ、根據トシテ調ベルト云フヤウナ解釋デ、此第一條ヲ定メタモノデアレバ、全ク五十號ノ精神ヲ是ハ、斯ウ縮メタルモノデアアル、此從タル施行法ヲ以テ、主タル五十號ヲ縮メタルト云フコトハ、ドウシテモ是ハ不法ノコト、思ハレル、ソレデ私ハ此一條ヲ取除イテ置イテモ、政府ハ之ヲ施行スル上ニ於テ、差支ヘヌト思ヒマスカラ、多田君ニ賛成致シマス

○(望月長夫君) 今ノ高須賀君ノ修正デスガ、私ノ論旨ノ中ニモ、無論各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度ハ、適法ノ處分ナケレバ行ケナイ、不適法ノ處分デモ、ソレデ宜イト云フ趣意デハナイ、ソレデ要スルニ高須賀君ノ説ト、私ノ説ト同ジモノニナル、此二ツノ議論ハ、一致シタ方ガ宜イダラウ、高須賀君ニ相談デアリマスガ、ドウデセウ御譲リハ出來マセヌカ

○(高須賀君) 適法ト云フコトニナレバ、安心ガ出來ルト思ヒマス

○(林彦一君) 適法不適法ト云フコトハ、何ヲ標準ニシテ、適法不適法ヲ定メルノデアアルカ

○(高須賀君) ソレハ隨分今私ガ修正ヲシマスル時分ニ、御話ヲ致シタヤウニ思ヒマスガ、各藩ニ於テモ、隨分不當處分ヲシタト思フ、私共認メテ居ル、實ニ不都合ノコトヲシテ居ルト認メテ居ル、併ナガラ若シ中央政府ニ於テ、適法デナイト認メタナラバ、ソレハ即チ適法デナイト云フ祿制ニナツテ來ル、若シ茲ニサウ云フコトヲ書イテ置カナケレバ、藩ニ於テ即チ不當處分ヲシタト云フコトデモ、唯斯ウ云フコトニ、最後ニ定メタル祿制ト云フコトニシテ置クト、政府ノ改メヤウガナイ、若シ不都合ナト云フコトガアレバ、政府ノ改メルト云フコトノ餘裕ヲ與ヘルタメニ、最後ニ與ヘタル適法ノ制度

ト云フコトニシテ置クヨリ、仕方ガナイト思ヒマス

○(林彦一君) 其適法不適法ト云フハ、何ヲ標準ニシテ、適法不適法ト云フコトヲ定メルカト云フコトガ、ナケレバナラヌ

○(高須賀君) 是デ見マスルト各藩ニ於テ、最後ニ定メタル制度ヲ異ニスル、ソレガ違ヘバ直セヨト云フ、中央政府ガ重モナモノニナツテ居ル

○委員長(濱名信平君) 採決致シマス、サウスルト削除説カラ修正説ト、斯ウ行キマス、多田君ノ第一條ノ削除説ニ御同意ノ諸君ハ、起立

起立者 四名

○委員長(濱名信平君) 四名、高須賀君ノ修正説ニ御同意ノ諸君ハ、起立

起立者 一名

○委員長(濱名信平君) 一名、望月君ノ原案ト云フニ賛成ノ諸君ハ、起立

起立者 四名

○委員長(濱名信平君) 此事ハ、一ツ私ハ意見ヲ述ベテ、可否ヲ決シタイノデス、先刻來諸君ノ御説モアリ、私モ此法律ノコトニ付イテハ、相談ニ與カリ、提出者ノ一人デモアリマスガ、政府委員ノ説明ヲ聞キマスルト、私ハ五十號ノ布告ヲ左マデ權力ヲチバメタモノトハ見マセヌ、所謂五十號ノ布告、明治九年藩制施行以後ニ於ケル所ノ祿制ノ定メ方ニ依ッテ、其定メ方ガ果シテ朝裁ヲ得テ、正當ノ手續ヲ經テ居ルモノナラバ、其祿制ニ依ッテ處分スル、若シ正當ノ取調ニアラズシテ不當ノ減祿薄祿、又ハ誤謬デ不幸ニ下ゲ、遞減祿ニ遭ッテ居ルモノハ、訂正ノ部分ニ加ヘテ、五十號ノ布告ニ依ッテ處分スルモノデアルト云フコトヲ、昨日來諸君ノ御質問ノ間ニ、耳ニ存シテ居ル、所謂藩制施行ノ明文ノ中ニモ、功アツテ祿ヲ増シ、罪アツテ祿ヲ削グモノスラ、朝裁ヲ受ケテアルモノデアアルカラ、其他ノ祿ヲ減シ祿ヲ削グニ於テ、朝裁ヲ仰ガズニシタナラバ、訂正スベキハ勿論デアツテ、政府委員ノ答辯モ、其點ハ明言シテアリマスカラ、私ハ原案ヲ賛成シテ居ッテ、聊カ差支ナイト存ジマス、因ッテ望月君ノ説ニ同意ヲ表シマス

○(多田作兵衛君) 私ハ外ニ同意ヲ受ケテ居リマスカラ、規則ニ依ッテ少數意見ヲ出シマス、此事ヲ御届ヲシテ置キマス

○委員長(濱名信平君) 第二條カラ第四條マデ

○(林彦一君) チョット質問致シマスガ、第二條、是ハ先年國事犯ニ付イテ、アツタカ、此官祿ヲ下渡シタトキノトハ、違フノデアリマスカ

○政府委員(松尾臣善君) 二十七年法律二十號國事犯ノハ、全ク現金デ一時ニヤタノデ、此方ハ五十號ノ法律ニ依テ、金祿公債證書ヲヤルト云フノデ、違ッテ居リマス

○(林彦一君) 換算法ハ……

○政府委員(松尾臣善君) 二十號ノ法律ノヤリ方ト、此法律ノ適用方トハ、違ヒマスカラ、從ッテ換算法モ違ヒマス

○(高須賀禮君) 二年カラ三年マデノモノニハ、永世祿ヲ寄附シタト云フコトガアリマスガ、太政官布告ノ第八號第一條ノ二年カラ三年マデト云フ方ニ、今マデハ御換算サレマシタカ、第一條ニ依リマスルト、四年カラ三年トアリマスガ、二年カラ三年ト云フモノハナイノデアリマス

○(大藏書記官永濱盛三君) 是マデハ明文ガアリマセヌデシタカラ、已ムヲ得ズ一二アリマシタ、例ヘバ確カ行政處分テ割合テ定メタト記憶シテ居リマス

○(高須賀禮君) 三條ハ原案ノ通り……第四條ハ、私ハ無用ノモノデハナイカト思ヒマス、勿論祿高全部ニ付イテ換算シタ額カラ、既ニ給與シタ額ヲ引去ラネバナラヌコト、思ヒマス

○(大藏書記官永濱盛三君) ツレハ法律五十號ノ一條ヲ見マスルト、シマヒノ方ニ給與未濟額云々トアツテ、給與未濟額ノミヲ換算スルヤウニ見エテ居リマス、例ヘバ百石ヲ九十石シカ受ケヌト云フ場合ニ貫ヒ、不足ノ十石ヲ、十石ノ率デ換算スルヤウニ見エマスガ、此法律ノ規定ニ見ヘルヤウニ實行シマスルト、不公平ガ生ジマスカラ全部ニ付イテ換算シテ得タ額カラ、先年支給シタ額ヲ引去リ其殘額ヲ給與スルコトヲ明ラカニスルタメニ、四條ヲ規定シタノデアリマス

○(高須賀禮君) 四條ハ原案ノ通り……私ハ此五十號ノ法律ハ、マダ不備ガアラウト思ヒマス云フノハ、ドウ云フコトカト申シマスルト、利子ノコトデゴザイマス、チヨット申シマスレバ、政府ニ於テ藩制施行以後明治政府ノ時ニ當テ、家祿給與ニ不當ノ處分ガ行ツタ、又政府デ錯誤デアルト云フコトヲ、既ニ認メタ以上ハ、其不足額或ハ錯誤シタ所ノ現金額ハ、勿論ノコト相當ノ利ヲ附セナケレバナラヌト思ヒマス、即チ明治五年カラ給與スルノ間、既ニ錯誤ヲシタ、又不當ノ處分デアルト云フコトヲ、法律上デ認メタ以上ハ、ツレニ利ヲ附セナケレバナラヌト思フ、所ガ其金額ヲ計算シテ見ルト、現金額ヨリ利子ヲ渡スト、多クナルト思フ、併ナガラ私ノ考ハ、初メカラ不當ノ處分ヲシタ、錯誤ヲシタカラ、現金ヲ渡シ、尙ホ利子マデ添ヘテ渡スト云フコトハ、不穩當ト思ヒマスカラ、三十年十一月マデハ、其利子ヲ渡サナイト云フコトハ、適當デアルト云フノガ、法律ノ爲メニ、其處分ヲ三十年十一月五十號ノ法律ガ出ルマデ、休止サレテ居ツタ、併ナガラ二十年十一月ニ法律ガ出タ以上ハ、其處分ハ不當デアアル、又錯誤デアルト云フコトヲ、政府ニ於テ十分ニ認メタト云フコトデアレバ、セメテハ二十年十一月カラ、利子ヲ附スルガ至當デアラウト思フ、ナゼカト云フト、五十號ノ法律ニ依ツテ不當デアアル、又錯誤デアルト云フコトヲ調査後ニ認メタルモノハ、政府ノ勝手ニ依ツテ調査シタノデ、即チ五十號ノ法律ノ當時、是ハ錯誤デアアル、是ハ間違デアルト云フコトヲ認メタカラ、現金ヲ渡サナケレバナラナイ、併ナガラ政府ハ、ツレガ錯誤デアルカ、不當デアアルカト云フコトヲ調査スルタメニ、二年モ三年モ其調査ノタメニ時日ヲ要シテ、其不當デアアル、金額ヲ渡サナイト云フコトハ、甚ダ國家

トシテ不都合デアラウト思フ、丁度例ヘテ見マスレバ、千圓ノ金ガアル、ツレヲ渡ス時分ニハ、八百圓ホカ渡サナイ、サウシテ貳百圓ノ不足ヲ生ジタ、ツレヲ一方ニハ、八百圓デ全部濟シタ、一方ニハ千圓既ニ渡シタモノト心得テ居ル、ツレヲ貳百圓ト云フモノヲ渡シタカ、渡サナイカラ調査スルタメニ、二年モ三年モ掛ツタトスル、二年モ三年モ掛ツテ、貳百圓ノ利子ハ、先ヅ間違ツタト云フ最初ニ溯ツテ、若シ是ガ間違ツテ居ル、錯誤デアルト、貳百圓ヲ認メタ以上ハ、其貳百圓ニ對スル利子ヲ渡サナケレバナラヌト思ヒマス、ツレ故第五條ニ、斯ウ云フ規定ヲ置キタイト思ヒマス「家祿賞典祿處分法施行ノ日ヨリ利子ヲ附シ元金額ト共ニ祿高整理ノタメ發行スル公債證書ニ計算シテ給與ス」斯ウ云フコトヲ入レタイト思ヒマス、ナゼカト云フト、五十號ノ法律ヲ見ルト云フト、斯ウ云フコトガ書イテアル、五十號ノ第一條ニ「本條施行ノ日ニ於テ」トアル、兎ニ角現金額ヲ渡スト云フコトニナツテ居ル、本法施行ト云フト、賞典祿處分法ガ出タ當時ヲ云フニ違ヒナイ、ナゼナレバ第四條ノ但書ニ「本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ届出タルモノ」トアツテ、本法施行ハ、處分法ガ出タ當時ニ相違ナイ、サウスルト現金ヲ渡スト云フコトデアレバ、其後政府ガ、ツレヲ調査スルタメニ、時日ヲ要シタトスルト、其間ノ利子ハ、渡スコトヲ認メタ以上ハ、利子ヲ附シテ渡スガ、正當ト思ヒマス、ツレ故第五條ニ斯ウ云フコトヲ入レテ置キタイ

○(多田作兵衛君) 此法律ハ、慈善的ノモノノ護救的ノモノデアアル、ツレヲ高須賀君ガ、權利的デ利子ヲ附ケルナド云フハ、言語同斷ト思フ、私ハ未來ヲ言ウテ置ク、利子ヲ附ケル位ヂヤ、請願者ハ大變ニ、此法案ガ出タトキニ落膽スルト思フ

○(小山久之助君) 私ハ高須賀君ニ賛成致シマス

○委員長(濱名信平君) ツレデハ採決致シマス、高須賀君ニ賛成ノ御方ハ、起立

起立者 少數
○委員長(濱名信平君) 起立者少數デ、消滅ニ歸シマシタ、二條カラ七條マデハ、原案通りデ、御異議ハアリマスマイカ
○委員長(濱名信平君) 原案通り決シマス、是デ散會致シマス
午後零時二十六分散會

明治三十二年三月二日印刷

明治三十二年三月三日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局